

いくな
生名ロマンの会

～ボランティアでつくろう「生名ロマン街道」～



生名ロマン街道・桜並木を走るトロッコ列車



ボランティアによる環境保全活動・年3回

経緯

- 生名区老人会等の人々が子々孫々のためにと植栽した桜(生名谷川兩岸総延長約2km)が、41年を経過し大きく美しく成長した。
- 平成15年、兩岸の管理道路を「ふれあいロマン街道」と命名、公園化し桜の美しさと自然の恵みをアピール、環境保全、地域コミュニケーション、安らぎの名所として地域の活性化活動を開始した。

取組内容

- 平成16年より、毎年3月25日～4月10日の日程で「勝浦さくら祭り」を開催、規模を拡大しながら各種イベントを実施。
- 生名ロマン街道、生名谷川の清掃と草刈り、桜の剪定等を実施し、桜と街道の安全を確保するとともに、高齢者の活躍と地域コミュニケーションの活性化を図る。
- 町内外のボランティア等を受け入れ、地域間交流や町の活性化活動を実施。

活動の効果

- 勝浦さくら祭りは、地区内の祭りとして開始されたが、年々規模を拡大し平成30年には外国人観光ツアー客の呼びこみに成功、町内の文化経済にも大きな影響力を与えるようになった。
- 町内の各種団体や学校の他にも、徳島市内の大学等からもイベント参加等があるなど、多くの人々により本取組は作り上げられている。1日のボランティアが100名を超える日もある。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域のコミュニケーションと都市との地域間交流をさらに促進すると共に、アフターコロナのインバウンド市場への再挑戦に挑み、地域の経済的波及効果を促進し地域の活力強化に寄与したい。また「生名ロマンの会」の後継者育成にも力を入れたい。

NPO法人 阿波勝浦井戸端塾

～グローバル・地球と結ぶ勝浦づくり～



東京オリンピック・パラリンピック周辺会場での展示



恐竜の里

経緯

- 勝浦町は中山間地域で基幹産業は「貯蔵みかん」であるが、昭和56年の寒凍害により壊滅的な被害を受け、長年町がひっ塞する状態が続いた。
- ふる里勝浦の再発見と町の活性化を目指し、平成3年「新とくしま県民運動推進」の認定を受け、「勝浦町・地域づくり井戸端塾大会」を開催し、活動を開始した。

取組内容

- 家庭で飾られなくなった「雛人形」を全国から集め、供養して飾る「ビッグひな祭り」を開催。
- 雛人形を30カ国を超える外国の方々に贈り、国際交流を図っている。
- 東京2020オリンピック・パラリンピックの期間中、会場周辺施設で雛人形1,000体を展示。
- 平成6年、恐竜の化石が発見され「恐竜の里づくり」に取り組んでいる。

活動の効果

- 東京2020オリンピック・パラリンピックの期間中、会場周辺施設で展示を行い、各国のメディア関係者や世界に向けて日本文化の発信を行うことができた。
- 「恐竜の里づくり」では、「恐竜ウォークラリー」を開催し、恐竜をアピールするイベントとして継続開催されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、イベントを継続し、周辺にある道の駅や産直市とも連携しながら交流人口の増加に取り組めます。また、恐竜化石資源の保全と「恐竜の里」を中心に自然と融合した空間の構築を目指します。

市宇集落

～天空の市宇の棚田～



彩保育園との芋ほり体験



棚田ライトアップ

経緯

- 1999年に上勝町の棚田集落で、自主的な集落活動組織「市宇棚田保全よろず会」が設立され、上勝町棚田地域で最初の棚田を活用した農業体験交流を行った。
- 2011年の棚田サミットをきっかけとして、会場となった八重地、市宇、田野々、檜原の棚田との活動連携が誕生した。

取組内容

- 上勝町の棚田地区で、最初のサツマイモ栽培や芋ほり等の農業体験交流を行い、現在も継続。
- 市宇の名前に掛け1,111本のキャンドルを結婚式場から譲り受け、棚田をライトアップ。
- ライトアップには大学生がボランティアで関わり、集落との交流を実施。
- 森を校舎に、自然を感じ、体験に学ぶプログラム自然学校「もりのべ」を実施。

活動の効果

- 棚田ライトアップは、地元新聞紙でも取り上げられ棚田保全の取組も含めてPRすることができた。
- 「もりのべ」に参加する子ども達は、森を歩き、風の音、鳥の声に耳を傾けいっぱい遊び、勇気と知恵を持って、力強く生きることを学んだ。また、草の匂いや土の感触などを、鼻や手で感じるにより、成長と発達に欠くことのできない感性を育てた。

応募団体からのアピール・メッセージ

豊かな地域の暮らしを支える環境の保護や保全に、社会の一員として、参加してもらえよう意見交換を実施し「ここに来て良かった。また来たい。」と思える森の子育て広場づくりを目指しています。

かしはらしゅうらく

檜原集落

～緑の階段 みんなで守ろう檜原の棚田～



棚田オーナー制度 小松島西高校勝浦校



棚田ウエディング

経緯

- 平成23年の棚田サミットを上勝町で開催したことをきっかけに、地元NPO支援のもと様々な集落活性化事業がスタート。
- これまでの棚田保全だけの活動から、都市部との交流や、ビジネスの視点も考慮しながら試行錯誤をしている。

取組内容

- 2012年から棚田オーナー制度を実施、制度は、棚田の稲作にとどまらず、スタチ、ゆず、ゆこうなどの地元の特産品にも拡大。
- 集落住民、関係者による手作り結婚式(棚田ウエディング)が行われ「紅葉の葉っぱ」と「ライスシャワー」で新郎新婦を祝福。
- 中山間地域等直接支払の棚田地域振興活動加算を活用し、集落内のお休み処に無人直売所を整備中、棚田で収穫した玄米などを販売する。

活動の効果

- 小松島西高校勝浦校や上勝小学校が棚田のオーナーになり、授業の一環として集落を訪れ、地元の人と稲作を行うなど総合学習、食育の場となっている。
- 集落総出でボランティアを実施しており「集落を通れば必ず誰かが草刈りをする風景を見る。」と言われるほど活発に活動している。
- 集落では高齢化が進んでいるが、先人から引き継いだ田んぼを守っていききたいとの気持ちから保全活動を続けるとともに、地元NPOの支援もあり、江戸時代からほとんど変わらない美しい棚田の景観を維持している。

応募団体からのアピール・メッセージ

人の温かみ、お互いを助け合う気持ちが残っている地域で、そこに住む人々の人間性が何よりの資源、日々の暮らしが美しくいつまでも残ってほしい。

かぶしがいいしゃ
株式会社かみかついっきゅう

～来る人も住む人も健康になる町づくり～



ツアーの昼食で提供する玄米バーガー



森のヨガ

経緯

- 町による月ヶ谷温泉周辺を整備する彩山事業が始まり、行政、地元、民間企業で、地元資源を活用したプログラムとして取組がスタート。
- 町への視察者は多いが、観光の側面が少なかったため健康観光プログラムの開発が進んだ。町には高齢者も多いため健康が重要なキーワードとして位置付けられた。

取組内容

- 高低差を活かした気候療法や、森林の中に設けたリラクゼーションスペースを活用したヘルスツーリズムの提供。
- 月ヶ谷温泉「月の宿」を拠点とし、地元ならではの食材を生かした低カロリー玄米菜食メニュー、地元の自然を生かしたウォーキング&エクササイズコース等の提供。
- ツアー参加者の食習慣アンケートを基にした栄養指導などを組み合わせることで、いより豊かなヘルスツーリズムを構築。

活動の効果

- ヘルスツーリズムによる健康産業の創出により、新たな雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進している。
- 森林空間を活用することにより、森に入る機会が増え、森林整備が進むことにより、森林インフラが強固になり、河川の水質の向上にもつながる。
- 町外民間企業の新人研修などの研修場ともなり、町民のみならずたくさんの人によって維持される持続可能な森林となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

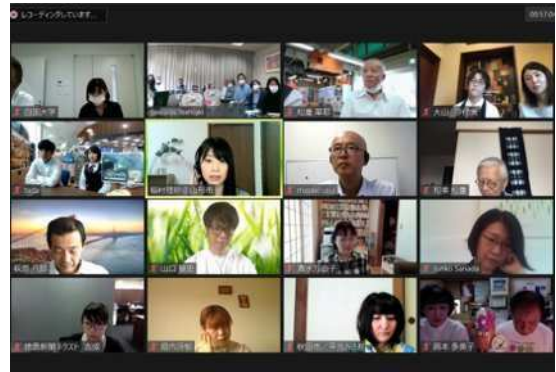
多職種連携(行政、地元、民間企業)による体験学習中心の健康な環境づくりを行い、地域活性、健康づくり、森林整備の3側面を統合した取組を行っていく。

たなだみらい きょうざかい
かみかつ棚田未来づくり協議会

～ウェブ談義所による棚田活動パワーアップ～



棚田アイス



棚田ウェブ談議所

経緯

- 平成23年度全国棚田サミット開催をきっかけに、上勝町4地区で活動開始。
- 過疎高齢化のため、単一地区での棚田保全・活性化活動の推進は困難なため、連携して活動。
- 平成24年度より「棚田感動ビジネスプロジェクト」、平成29年度に「棚田未来づくりプロジェクト」開始をきっかけに、当協議会を設立。

取組内容

- 棚田資源を活用した「棚田50の冒険」の冊子の制作に取り組む。
- 棚田米を使用した棚田アイスを開発。棚田アイス全国リレー試食会を開催。
- 棚田2地区で小規模LEDライトアップを開催。コロナ対策器具の木製足踏みスタンドを開発し、体験活動を実施。
- 「棚田ウェブ談議所」を開催し、多様な人材・組織と連携。

活動の効果

- 棚田アイスの販路開拓を行い、6ヶ月間で1,252個を販売。
- オンラインを活用した「棚田ウェブ談議所」で、多様な人材・組織と簡単に連携ができるようになり、地域、企業、学校等との連携が大きく進んだ。また、諸大学の研究者や専門家とのネットワークができ、棚田アイスの学術報告ができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

「棚田未来づくりプロジェクト」は、過疎高齢化がすすむ棚田集落で、交流活動促進による元気な集落の持続や集落居住をめざします。また、新型コロナウイルス感染症の影響により活動方法を見直して取り組んでいます。

田野々集落

～桃源郷・桜源郷(パラダイス)をつくろう！～



棚田の音楽祭



神田茶屋の様子

経緯

- 2011年の棚田サミットをきっかけに活動が活性化し、会場となった八重地、市宇、田野々、檜原の棚田との活動連携が誕生した。
- 上勝町持続可能な美しいまちづくり基本条例制定や町単独住宅の整備に伴い、話し合いが加速化し、今までの取り組みも含めて再検討を行うことになった。

取組内容

- 棚田をステージに野外音楽祭を実施、地元の子供たちによる演奏などを行っている。
- 疲れを癒す足湯やあめご釣りの体験ができる施設「神田茶屋」を運営、地元の晩茶などを提供。
- 集落の竹を活用し、地元製材所の協力のもと住民ボランティアでジャンボ門松を製作。
- 中山間地域等直接支払の棚田地域振興活動加算を活用し無人直売所を整備中。

活動の効果

- 棚田の音楽祭の開催数も18回となり年々規模も拡大し、地元の子どもたちが棚田と関わるきっかけとなっている。
- 現在「神田茶屋」は、若いIターン者が軽食を提供する店となり起業の場となった。今日も地域の方が訪れ、和気あいあいとした雰囲気ではまっている。
- 無人直売所は、移動が困難になった高齢者が気軽に野菜を販売する場所となる。

応募団体からのアピール・メッセージ

地元の棚田米や晩茶などの農産物をブランド化し販売する。また、地元NPOと連携した棚田ライトアップやノルディックウォークなど交流人口を増加させ、町の魅力向上を目指す。

ふどのしゅうらく

府殿集落

～府殿百姓一気～



農村体験



府殿百姓一気のブランド化活動

経緯

- 平成16年の中山間直払制度の交付金を活用した電気柵設置を機に、地域の絆で鳥獣と共存できる山間集落作りを開始。
- 平成22年、集落に鳥獣害防護網を設置したところ被害が激減し生産者意欲が高まった。令和2年、中山間地域等直接支払の棚田地域振興活動加算に挑戦し、集落内での話し合いが本格化。

取組内容

- 田植え等の農村体験による、棚田地域における教育・研修等の取組やイベントの実施。
- 景観形成などの多面的機能の増進活動を継続して実施。(集落の農道周辺に葉ボタンなどの景観作物を植え集落で管理)
- 鳥獣害対策の防護網を集落で点検。
- 菜種、晩茶、棚田米のブランド化、6次産業化するなど付加価値向上の取組を実施。

活動の効果

- 集落で月1回防護網の見回りを行い、ネットに番号札を付けて管理することにより、鳥獣の被害が大幅に減り、住民の生産意欲が向上した。
- 生産した菜種を精油会社で搾り販売、2カ月余りで完売。晩茶は、店頭と並ぶと即完売するほどの人気。

応募団体からのアピール・メッセージ

高齢化が進む集落であるが、住民と協力して鳥獣害を防ぎながら、少しずつ収穫量を増やし、府殿百姓一気の名を世に広めたい。
集落での話し合いを強化し、集落内の荒廃農地が出ないように管理していく。

八重地集落

～今だったらまだ昔のこと教えてやれるけんの～



茅葺(かやぶき)屋根の杉皮の張替え



SDGsインターン発表会

経緯

- 中山間直接支払事業等を活用し農地維持活動を行うなか、集落内で未活用であった空き家の茅葺屋根を再生したことをきっかけに、地元NPOの支援のもと集落活性化事業が始まる。
- 「今なら自分たちの技や知識を伝えられる」との思いから町内の若者を巻き込み、昔ながらの暮らしや遊びの体験の提供を始める。

取組内容

- 「かみかつ茅葺学校」を拠点に茅葺技術や昔ながらの暮らし体験を通じた都市部と農村の交流活性化。
- SDGsの知識を持った都市部の学生が上勝町にインターンし、暮らしの中にあるSDGsを発見するプログラムの実施。
- 中山間地域等直接支払の棚田地域振興活動加算を活用し、水路を集落で管理、年複数回の共同活動を実施。

活動の効果

- 復元した茅葺民家を拠点とし、昔ながらの暮らしを体験することにより、伝統技術や自然の物を有効に使う知恵を学び、集落へ足を運ぶきっかけとなった。
- 環境にやさしい農業や暮らし方に興味を持つ若者が、都市部と農村をつなぐ架け橋になり参加者が増えている
- 都市部の学生が感じたことを町民へ向けて発表することで町民はSDGsの認識を深め、学びの相乗効果を得ることができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

高齢化が進む中、先人たちから知恵や技術を受け継ぐことができる最後のチャンスかもしれない今を大切に活動していきます。新たな移住者を受け入れられるよう住民相互で学習、協力し受け入れ体制の充実を目指します。



優秀賞

かみやま

神山しずくプロジェクト

～林業×デザインで接続可能な豊かな田舎へ～



杉にしか出来ない赤白の杓目が美しい木製品



職人育成事業、伝統工芸技術の習得。師弟写真

経緯

- 神山に移住したひとりのデザイナーが、放置林による山林環境や水源枯渇の問題に気づき、日本各地の中山間地域で発生する林業の課題に対し何か解決策は？との問いから始まった活動。
- 低迷する杉に新たな価値を見だし、50年後の未来に向けてアクションを起こそうと、平成25年に地元NPOと共に活動をスタート。

取組内容

- 山林課題の啓発活動、町産材である「杉」を利用した新たな商品価値の創造。
- 地元産業振興による地域活性化の取組。
- ブランド商品の製造町内ワンストップ化、町内企業とのサプライチェーンの強化。
- 地域内生産力向上を実現し、地方産業の完全な自立を目指す取組。
- 衰退する一次産業の新たな出口や新たな生産関係、移住、定住、地域独自の技術など、多面的な課題解決への取組。

活動の効果

- 杉ならではの商品価値を創造したが、機械加工が出来ず高度な職人技術を要する。その職人の後継者問題に対し独自に職人育成事業を開始、都市部から移住した若者が技術を習得しブランドの95%の商品を生産するまでに成長。その実績から神山町と連携した地域おこし協力隊制度を活用した職人育成事業へと発展。
- 会員関連団体で10名の移住者を雇用中、全員が町内に定住し、移住促進や新たな雇用先として地域に貢献。町内企業とのサプライチェーンを強化し地域産業に寄与。
- 感染症対策を施した直営店を開設し営業開始。神山町の交流人口創出に寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

林業×デザインでブランド化を進め、地元で仕事を作り、雇用を生み、若者を受け入れることで未来に循環する。建材以外の杉利活用の分野において、これからも明るいニュースを創って、本当の意味で地元を豊かにしていきたいと思っています。